

お知らせ

中国四国防衛局

第84回 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会審議概要

- 1 開催日：令和7年3月4日（火）
- 2 場所：広島市内（広島グランドインテリジェントホテル）
- 3 委員会審議概要：

委員会では、周辺藻場・干潟における環境調査結果（令和6年7月～12月）、藻場・干潟回復モニタリング調査結果（令和6年7月～12月）及び2025年度藻場・干潟回復等調査計画（案）について審議された。
結果は次のとおりである。

(1) 周辺藻場・干潟における環境調査結果の報告（令和6年7月～12月）

当該環境調査は、事業の周辺の藻場・干潟環境の状況を把握し、自然環境などの変化を踏まえ、造成域の管理の遂行に資することを目的とする。アマモ場の分布幅は、平成9年6月を1として、変化をモニタリングしている。

平成16年の台風により調査区域内のアマモ場がほとんど消失し、平成18年まで毎年の台風によりその状態が続いたが、令和6年7月～12月のアマモ場の分布幅は、北側調査測線で0.0～0.4前後、南側調査測線で0.0～0.6前後を示した。

(2) 藻場・干潟回復モニタリング調査結果の報告（令和6年7月～12月）

ア C区域アマモ場モニタリング調査

アマモ場は、周辺と同様な藻場になることを目標とし、評価時期は調査開始後3年目（中間評価）と5年目（目標達成評価）を基本としている。C区域は、現在、4年目の調査を行っており、3年目の調査が完了したため、中間評価を行った。

生育可能面積は、目標面積の約3haに達していた。また、アマモ場の株密度・被度は天然藻場（※対照区）と概ね同様な変動を示し、実生・花枝・パッチの出現が確認された。

以上の結果から、C区域では、回復目標達成は可能と判断され、引き続きモニタリングを行うこととした。

イ 新設護岸岩礁性藻場調査

新設護岸岩礁性藻場は、周辺と同様な藻場になることを目標とし、評価時期は調査開始後２年目（中間評価）と３年目（目標達成評価）を基本としている。新設護岸岩礁性藻場は、北側と南側にわかれており、北側護岸南部分岩礁性藻場の３年目の調査が完了したため、目標達成評価を行った。

北側護岸南部分岩礁性藻場モニタリング区の岩礁性藻場面積は０．４ｈａ以上あり、目標面積に達していた。また、北側護岸南部分岩礁性藻場モニタリング区の被度、湿重量及び種類は、岩礁性藻場対照区と概ね同様な変動を示していた。

以上の結果から、北側護岸南部分岩礁性藻場では、回復目標である周辺と同様な藻場が形成されたと判断された。

(3) 2025年度 藻場・干潟回復等調査計画(案)

周辺藻場・干潟における環境調査及び藻場・干潟回復モニタリング調査を行なうこととした。

【用語説明】

対照区

モニタリング区が周辺と同様の藻場であるかを判断するための区域であり、埋立地から離れ、埋立による影響が及びにくい藻場が選定されている。

